

【図書館を使い倒すために一巨人の肩の上に立つ】

≪初めに≫

図書館とは、何をしてくれるところなのか。知的資源を提供し、疑問に答える場。図書をはじめとする各種資料（史料）を管理保存して後世に伝える場。最近では、サードプレイスやコミュニティを提供する場としても注目されている。それらを実践するためには、コロナ禍においても、人が集まることが重要であると考える。本提案は「図書館を使い倒す県民・市民を増やす」ための提案である。

○図書館に来てもらう

美術館にミュージアムショップがあるように、図書館にもライブラリーショップと喫茶スペースを併設する。県内企業や美術館とのコラボや、図書館のテーマ配架で言及した書籍の販売や図書館でのイベント会場など多様な使い方ができる。

①書籍のテーマ配架と書籍販売

→テーマ配架は既に行われているが、図書館という性質上、その場で少し手に取るだけになったり、借りられていて手に取る事ができなかつたりと、興味を持ってもゆっくり見にくい。そこで考えたのは、配架されている図書の販売ブースも同時に作ることである。図書館に蔵書の少ない新書や漫画などを販売し、図書館にある専門書まで手が伸びる筋道を作る事ができるのではないか。また、図書館にも入っていない新刊書籍を販売することは出版社にとってもメリットがあるのではないか。

②書籍のテーマ展示と県内企業製品の販売

→、県内企業の特色が分かるような製品、企業の成立や発展に貢献した人物などに関する書籍を展示する。実際に製品を販売し、手に取ることができることで県内企業の知名度向上にもつながる。また社会科見学などの利用や調べ学習にも利用ができるよう整備する。
→葵文庫の貴重書などをはじめとする郷土史料のテーマ展示を行い、展示を作るにあたって使用した書籍、論文集などの資料も併せて展示する（展示までの過程を可視化できたら面白い）。

③図書館に用がなくても来てしまう仕組み

→図書館内にATM（現金自動預け払い機）を設置する。現在、東静岡駅周辺にはあまりATMが設置されていない。近隣住民にとって図書館に定期的に行くきっかけや本を手にとるきっかけの一つを作り出せる。また、図書館の窓口近くに設置すれば、人目もあり防犯上も安心して使えるの場所となるのではないか。

○図書館を使ってもらう

小学校が近隣の図書館見学をして貸出カードを作ったり、調べもの学習に使ったりすることは多い。しかし、貸し出しだけが図書館の使い方ではないことをもっと知らせていく必要があるのではないか。特に中学校・高校生に向けてのレファレンスも含めた図書館の使い方講座を、学校と連携して行うことが重要ではないか。使い方をきちんと知れば青年期や壮年期の図書館利用にプラスに働き、個々人のより良い人生の形成にもつながっていくと思う。

使い方だけでなく、実践として図書館分類法を絡めた探し物ゲームや、「図書館を使った調べる学習コンクール」を夏休みの自由研究の一つとして宣伝して開催し、継続的な図書館の利用を推進する。

○図書館の魅力を伸ばす

①返却棚という有機体の展示

→個人的に返却棚が好きだ。誰かが興味を持って借りた本がわかるというのはとても楽しい。返却棚にある本は一期一会でいつ見ても飽きないが、すぐに元あった場所に返されてしまい保存が効かない。そこで「電子返却壁」という返却した書籍を閲覧のできる壁があるとよい。その日一日に返された書籍が表示され、また返却時にお勧め文を一言添えられるような仕組みを設ける。これは電子掲示板のようなもので、気になる書影にタッチすると書誌情報とお勧め文が表示される。

②学習支援の拡充

→現在、オンライン上には大学受験まで使える無料の授業動画や学習支援サイトが数多く存在する。これらを精査し、まとめたデータベースを開設し、個々の学力などに合わせて提供していく。社会人の資格取得に有益なサイトなども順次まとめていく。図書館を使って一人一人が変わっていきけるような学習支援体制をつくっていく。

③「困ったら図書館」という体制をつくり図書館を中心としたソーシャルワークを目指す。

→自身の人生において困りごとというのは割と多い。その相談窓口として行政機関で一番親しみのある図書館にまず行くという体制をつくる。そこでは各種機関が図書館と連携する形で相談援助業務や専門窓口への橋渡しを行う（保健、税務、法律、就労、学習相談など）。
→個人的に自分の人生で欲しいと思ったのは図書館における「進路相談」である。大学進学においては、どのような大学に何を専門に研究している教員がおり、どういった本を著しているのか。就職においては、どのような仕事と企業があるのか。これらを示すことできるのは赤本が置いてある小さい「進路指導室」ではなく体系的な蔵書のある「図書館」である。

④コロナ後を見据えたオンライン・レファレンス

→オンライン上には既に「レファレンス共同データベース」がある。しかし、静岡県内のレファレンス事例はほとんどない。県立図書館では多数の専門司書の安定した無期雇用を実現し、多種多様なレファレンスに対応し、オンライン上に公開できるように図書館を整備して欲しい。